

日本化薬グループ  
CSR レポート

2018

NIPPON KAYAKU GROUP  
CSR REPORT

DIGEST

世界的すさまじい発想。

 日本化薬

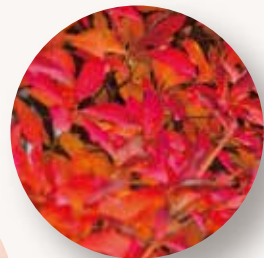


# 持続可能な 社会の実現に向けて

## FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT

日本化薬グループは、事業を通じて  
「生命と健康を守る」「豊かな暮らしを支える」  
製品・サービスを提供し、  
すべての人びとが健康でいきいきと  
豊かに暮らせる持続可能な  
社会・環境の実現に貢献します。

国内  
**19**社



### グループネットワーク

#### EUROPE

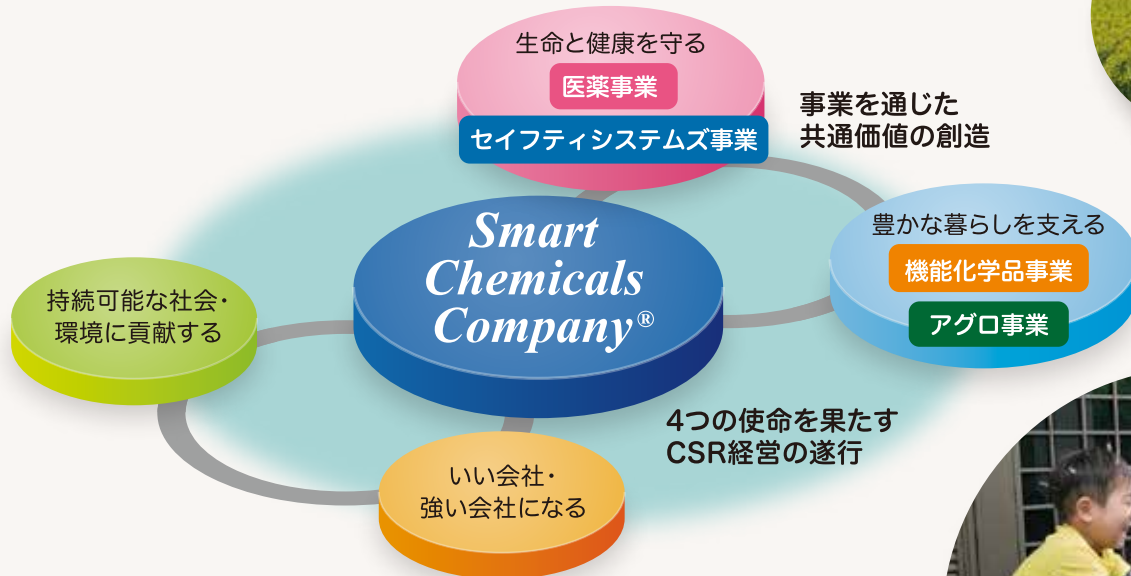
- オランダ**  
Dejima Tech B.V.  
Dejima Optical Films B.V.
- イギリス**  
RaySpec Limited
- ドイツ**  
Euro Nippon Kayaku GmbH
- チェコ**  
Kayaku Safety Systems Europe a.s.

#### ASIA

- 中国**  
無錫宝来光学科技有限公司  
POLATECHNO (HONG KONG) CO.,LIMITED  
無錫先進化薬化工有限公司  
化薬化工(無錫)有限公司  
上海化耀国際貿易有限公司  
化薬(湖州)安全器材有限公司  
化薬(上海)管理有限公司
- 韓国**  
Nippon Kayaku Korea Co.,Ltd.
- 台湾**  
台湾日化股份有限公司
- タイ**  
NIPPON KAYAKU (THAILAND) CO.,LTD.
- マレーシア**  
Kayaku Safety Systems Malaysia Sdn.Bhd.

海外  
**22**社

### 人びとが健康でいきいきと豊かに暮らせる社会





事業展開  
国と地域  
**12**  
カ国・エリア

## JAPAN

### 日本

日本化薬株式会社  
株式会社ボラテクノ  
株式会社日本化薬福山  
株式会社日本化薬東京  
株式会社ニッカファインテクノ  
日本化薬フードテクノ株式会社  
株式会社TDサポート  
株式会社ナック  
株式会社西港自動車学校  
有限会社YMKサービス  
和光都市開発株式会社  
株式会社日本人材開発医学研究所  
株式会社沖浦ゴルフセンター  
厚和産業株式会社  
群南産業株式会社

### 持分法適用会社

カヤク・ジャパン株式会社  
株式会社カルティバクス  
三光化学工業株式会社  
化薬アクゾ株式会社

## NORTH AMERICA

### アメリカ

Moxtek, Inc.  
MicroChem Corp.  
Argental, Inc.  
THE GILMORE ROAD PROPERTY, LLC  
NIPPON KAYAKU AMERICA, INC.

### メキシコ

Kayaku Safety Systems de Mexico, S.A. de C.V.



海外売上高比率  
**47.6%**

## INDEX

### 目次

- 04 トップメッセージ
- 05 日本化薬グループのCSR経営
- 06 特集  
廃水処理に関する環境保全技術の向上
- 08 For the Future

### Performance in Fiscal 2017

- 10 CSR アクションプランの活動報告
- 12 事業活動を通じた取り組み
- 14 お取引先への取り組み
- 15 お客様への取り組み
- 16 環境と健康と安全への取り組み
- 18 社会への取り組み
- 20 従業員への取り組み
- 22 コーポレート・ガバナンス
- 23 企業概要

## 編集方針

本レポートでは2017年度のCSRアクションプランに沿ってCSR活動をダイジェストとして報告しています。ウェブサイト「CSR情報」では、本レポートの内容に加え、環境に関する詳細なデータやグループ会社の事例など、より多くの情報を開示報告しています。

- 報告対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日
- 参考にしたガイドライン：ISO26000
- 報告対象組織：日本化薬株式会社、国内および海外のグループ会社の取り組みを含みます。ただし、人事データと環境のデータは日本化薬単体です。



# トップメッセージ

## TOP MESSAGE

「生命と健康を守り、豊かな暮らしを支える」  
時代の変化を先取りし、  
特長ある独自の技術をさらに進化させながら、  
持続可能な社会・環境に貢献し続けます。



私たち日本化薬グループは「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」(KAYAKU spirit)を企業ビジョンとしています。これは創業時より長く経営に携わった三代目社長の原安三郎の経営思想を現した社は「良心の結合」「不断の進歩」「最良の製品」がもたれています。一人ひとりの良き心を結び合うという「良心の結合」のもと、組織であれ個人であれ、途切れることなく進歩を続けるという「不断の進歩」によって、世の中に必要とされる「最良の製品」を提供し、社会に貢献し続けようという理念です。そして、このKAYAKU spiritの実践を支えている社員一人ひとりの企業活動そのものがCSR経営であると位置づけております。

私たちはこのKAYAKU spiritを創業時より受け継ぎ、一貫して世のため人のために貢献しようという真摯な姿勢で事業活動を行って参りました。市場や世の中の大きな変化にあっても、持てる技術を磨き柔軟に進化させながら最良の製品を生み出してきた遺伝子こそが、100年を越えて継続し成長し続けていける原動力であり、当社グループの強みであります。

時代は常に変化しています。私たちは持続的な企業活動をしていく上でさまざまな社会課題に対処して行かねばなりません。世界では人口の増加に伴う食料・水の不足、所得格差の拡大や児童労働など労働環境に関する問題、地球温暖化の進行など、気候変動に関する「パリ協定」や国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」で提起された課題が山積しています。また当社グループの事業環境を見ますと、化学品・素材分野では高度情報化社会

が進展する中で、より省エネルギー・省資源・低環境負荷の素材が求められています。自動車社会は世界中で拡大を続けており、自動車の安全性向上はさらに重要になるでしょう。医療の分野では国内で医療費の増大が社会的な課題となっています。

私たち日本化薬グループは、これらの社会課題に対して、社会の公器である企業として真摯に向き合い、当社グループとしてできることに取り組んで参ります。これまで培ってきた柔軟に進化させる事業の強みを活かし、色素や樹脂の技術を応用した低環境負荷機能性材料などで超スマート社会を支える機能化学品事業、抗がん薬やバイオシミュラーなどで患者様のQOL(Quality of Life: 生活の質)向上や医療費低減に貢献する医薬事業、自動車安全部品をグローバルに安定供給し人びとの安全を守るセーフティシステムズ事業、そして安定した農業生産を支え食料問題に貢献するアグロ事業、これらの事業を通じて社会に共有価値を創造、提供して参ります。また、安全・安心な職場環境の維持、人材育成やダイバーシティの推進を図り、高い倫理観をもってCSR経営を実践しながら持続的に成長し企業価値を高めて参ります。

CSRレポート2018は2017年度の活動報告をダイジェスト版としてまとめました。多くの皆さまに一読いただければ幸いです。ステークホルダーの皆さまにおかれましては、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

鈴木政信



# 日本化薬グループのCSR経営

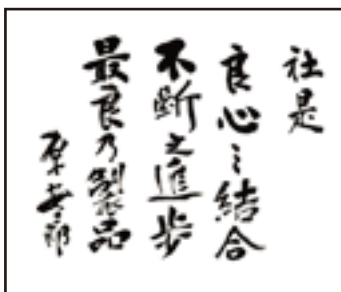
日本化薬グループは、KAYAKU spirit「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」を実現することにより、すべてのステークホルダーの信頼に応えるCSR経営を行っています。

## KAYAKU spiritとCSR経営

KAYAKU spirit「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」は、50年以上前に制定された社是「良心の結合」「不断の進歩」「最良の製品」をもとにして長く受け継がれてきた私たちのCSR経営の原点です。

KAYAKU spiritを実現させるための社員一人ひとりの日々の企業活動そのものをCSR経営と位置づけています。また、行動規範として「日本化薬グループ行動憲章・行動基準」を定め、あらゆる企業

活動において基本的人権の尊重、法令を遵守し、公正な事業活動を行い、すべてのステークホルダーの信頼に応えてまいります。



## CSRアクションプランと経営戦略

当社グループの経営基本方針は、すべてのステークホルダーの信頼に応えるため中期CSRアクションプランを策定し、「生命と健康を守り、豊かな暮らしを支える最良の製品・技術・サービスを提供し続ける」企業として持続可能な社会・環境に貢献することです。この経営基本方針のもと中期的な活動目標として策定した「中期CSRアクションプラン2016-2018」に取り組んでいます。

このアクションプランは、製品やサービスを通じて社会へ共有価値

を提供するとともにサプライチェーンマネジメントによるCSR調達の推進、顧客満足と品質の向上、中期環境目標に向けた取り組み、安全・安心な職場環境の維持やガバナンスの強化まで、すべてのステークホルダーに対して果たすべき行動計画を盛り込んでいます。

そして、これに連動させて中期事業計画 *Take a New Step 2016* を策定し事業戦略を実行することで事業全般にわたり経営戦略と一体となったCSR経営を実践しています。

## CSR推進体制

社長を委員長とするCSR経営委員会を設置し、経営戦略本部経営企画部にCSR推進担当を組織しています。CSRアクションプランの目標や結果はCSR経営委員会にて決議しトップダウンで推進しています。

また、CSR推進担当は組織横断的なCSRプロジェクトを運営し、各部門・事業場やグループ会社が主体的に取り組む体制をとっています。







# 日本化薬グループ・グローバルで「廃水処理に関する環境保全技術の向上」を実践

持続可能な社会の実現に向けて、環境問題や社会課題の解決を、企業が率先して取り組むことが求められています。世界12の国と地域で事業を行う日本化薬グループでは、「地球環境に配慮した安定・安全な廃水処理」を目指したCET(クリーン エコ テクノロジー)プロジェクトを、国内の事業場および中国にあるグループ会社WAC※1で実施しました。



国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」の目標14では、海洋と海洋資源の保全が掲げられています。生物多様性の保全にも配慮したCETプロジェクトは、こうした社会のニーズに対応しながら、2012年のスタートから5年半に及ぶ長期的な取り組みとなりました。

※1 WAC：無錫先進化薬化工有限公司の略号  
中国にある染料の製造販売会社

## WAC(中国)

テーマ 新規廃水処理設備導入によるCOD排出量低減

成果 COD※2排出量 約**28%減**(2013年比)

※2 COD：Chemical Oxygen Demand(化学的酸素要求量)水中の物質を酸化するために必要とする酸素量で、代表的な水質の指標の一つ

## 厚狭工場

テーマ

- ①高塩濃度 エポキシ廃水処理技術の開発
- ②触媒廃水モリブデン除去技術の確立

成果

エポキシ廃水処理の技術の確立  
(他特許出願3件)

## 福山工場

テーマ

高機能凝集剤による脱色向上

成果

水使用量 約**33%減**(2011年比)

## プロジェクト発足の背景と目標

樹脂や色素、染料を取り扱う当社グループの工場は、廃水処理に関して特有の課題があります。生物処理が困難な高塩濃度廃水、色素製造時の高COD着色廃水—これらの課題の克服は、環境負荷の低減はもちろん、地域社会とのエンゲージメントなど、持続性の観点からも重要と認識しています。

2012年10月に発足したCETプロジェクトでは、中長期目標のもと期間を第一期(2012~2016年)と第二期(2016~2018年)に分け、「中期CSRアクションプランNo.9：廃水処理に関する環境保全技術を向上させる」を実践するため、実効的なマネジメントを展開しました。廃水処理技術の向上によるCOD排出量の低減、将来の技術者の育成やコストダウン、拠点間の技術の平準化など共通の目標を掲げ、国内の事業場およびWACで取り組みを推進しました。

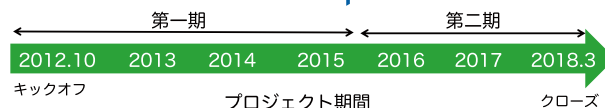
### プロジェクトの目標

#### 中長期目標 (PJ発足当時)

- 高度脱色技術の開発
- 各工場テーマの目標達成
- 技術者育成による安定操業

#### 短期目標(第二期)

- 各テーマのさらなる推進
- 処理技術の習得および向上





# 技術者育成、産学連携、信頼の獲得

CETプロジェクトには大きく3つの取り組みがありました。

①技術者育成に向けた取り組みでは、全事業場にて勉強会・分科会・交流会(のべ約20回/5年間)を開催してレベルアップを図るとともに、プロジェクトデータベースを立ち上げ、情報の一元管理と全事業場への発信を行うことで、タイムリーな情報共有を徹底しました。その結果、研究者の廃水に対する意識向上につながり、研究段階から廃水処理を意識した製造設計が可能となりました。

②産学連携では、技術交流会を開催し、当社グループの廃水のコア技術である「有色廃水の脱色技術」に関して事例発表や情報交換などを実施しました。また、新しい廃水処理技術の開発を目指して、大学との共同研究も行いました。

③社外ネットワークの構築に向け、お取引先からの技術者指導依頼や大学からの見学依頼にお応えし、積極的に社外とも技術を共有することで信頼の獲得に努めました。



## 東京工場

テーマ 既存廃水処理プロセスの最適化検討

成果 栄養剤変更および運転条件変更による  
原材料費削減(800万円/年)



## 【プロジェクト参加事業場/部署および主な成果】

### 国内

福山工場 (㈱日本化薬福山)、厚狭工場、  
東京工場 (㈱日本化薬東京)、高崎工場、姫路工場、鹿島工場、  
東京事業区、研究企画部、機能化学品研究所、医薬研究所、  
アグロ研究所、生産技術部

### グループ会社

WAC、㈱ポラテクノ、化薬アクゾ(㈱厚狭工場)

### 成果

- ・COD排出量 約**50%**減(2007年比)
- ・窒素排出量 約**43%**減(2011年比)
- ・リン排出量 約**29%**減(2011年比)

(国内実績)

## メ ッ セ ー ジ

### 「不断の努力で改善し、成果を将来につなげていく」

2012年のキックオフから約5年半。CETプロジェクトの財産として長期目標であった技術者育成はもとより、拠点間の廃水担当者や社外のネットワーク化も進み、また技術が確立したことで新たな設備提案やコストダウンの早期実現化につながるなど、目に見える改善ができました。さらに、処理技術の妥当性を評価し、最適化を実現するノウハウも蓄積できています。そしてプロジェクトの成果は2018年に「日本化薬グループの廃水処理技術集成」として製本化し、将来に備えた廃水技術基盤の強化や技術継承にも役立てています。今後は各工場の技術支援や環境保全活動など、PDCAを力強く展開していきたいと考えています。

今回の活動は、2018年に日本化学工業協会レスポンシブル・ケア賞優秀賞を受賞しました。

確かな知識と高い処理技術で、捨てるもの(廃水)に対する処理に意識を傾け、環境に配慮した製品設計を行うこと、そして既存のプロセスを創意工夫により改善していくことで、これからも環境にやさしい日本化薬グループを目指していきます。

日本化薬(株) 生産技術本部  
生産技術部長 佐川 征博





豊かな生活を目指した日本化薬グループの現在および未来の製品や技術

# For the Future

土木用火薬、爆薬、破砕剤類  
含水爆薬、アンホ爆薬  
電気雷管、非火薬破砕剤

フレキシブルディスプレイ  
ウェアラブルパソコン  
有機半導体

印刷材料  
感熱顕色剤

偏光サングラス  
偏光素膜

デジタルカメラ  
微細カラーフィルタ用カラーレジスト  
ブラックマトリクス用樹脂

のぼり旗  
捺染用インクジェット色素

プロジェクター  
偏光フィルム  
無機偏光板

スマートフォン、タブレット  
カラーレジスト用樹脂、カラーフィルタ用色素  
半導体封止材用エポキシ樹脂  
フラッシュLED封止用ハイブリッド樹脂  
液晶シール剤、コート用樹脂、タッチパネル用接着剤

菓子  
品質保持剤

洋服  
染料

食品  
健康食品原料

衛生用品  
ウエットクロス

カーテンエアバッグ  
インフレーター

ダンボール  
紙用染料

除菌スプレー  
エタノール製剤

農業  
殺虫剤、除草剤、  
土壌くん蒸剤

ケーブル保護  
防鼠剤  
害虫駆除  
防疫剤



CFRP  
マトリックス樹脂

熱伝導性耐熱絶縁材料  
電動航空機の電動モーターコイル

廃水処理技術  
水をきれいにし  
自然にかえす技術

花火  
黒色火薬  
煙火用火工品

医療  
医療機器  
原薬  
診断薬

エネルギー変換材料  
健康診断センサー  
熱電変換素子

医療用医薬品  
抗がん薬  
ジェネリック医薬品  
バイオシミラー

抗がん薬内包高分子ミセル

巨大水槽  
透明樹脂の原料である  
メタクリル酸製造用触媒

おむつ  
高吸水性樹脂の原料  
であるアクリル酸製造  
用触媒

トイレトペーパー  
紙用染料

車載用シート  
染料  
シートベルト  
染料

シートベルト  
マイクロガスジェネレータ

ポップアップエンジンフード  
マイクロガスジェネレータ

車載用ディスプレイ  
液晶ディスプレイ用フィルム  
液晶シール剤  
エンジン  
エンジンモーター制御  
半導体用エポキシ樹脂  
プリント基板用樹脂

ディスプレイ  
半導体封止材用エポキシ樹脂  
液晶シール剤  
液晶パネルスペーサー用樹脂  
カラーレジスト用樹脂  
コート用樹脂  
プリント基板用樹脂  
機能性フィルム  
カラーフィルタ用色素  
赤外線吸収剤

ヘッドアップディスプレイ  
光制御フィルム

ふせん  
紙用染料

エアバッグ  
インフレーター  
サイドエアバッグ  
インフレーター

CFRP  
マトリックス樹脂


アクリル塗料、ライトカーバー  
塗料・部品の原料である  
アクリル酸製造用触媒、  
樹脂接着剤

光ディスク  
接着剤  
コート剤

プリンター  
インクジェット  
プリンタ用色素

# CSRアクションプランの活動報告 Performance in Fiscal 2017

中期CSRアクションプランの目標に対する2017年度の取り組み結果および評価を記載しています。

Action Planアイコン	No	中期CSRアクションプラン2016-2018	掲載ページ
 生命と健康を守る	1	得意技術によるイノベーション推進と高品質な医薬品を信頼性の高い情報と共に安定供給することによって社会に貢献する	12-13
	2	より多くの自動車安全部品をグローバルに供給することで、自動車衝突安全性の向上、人々の安全に貢献する	12-13
	3	研究開発を遂行し、最良の製品を提供し続けることにより、生命と健康を守り豊かな暮らしを支え社会に貢献する	12-13 WEB 経済的責任
 豊かな暮らしを支える	4	情報・通信、省エネルギー・省資源分野へ特徴のある機能化学品材料を提供し、「超スマート社会」の実現に貢献する	12-13
	5	市場環境や顧客ニーズに適合した農薬を提供し、安定した農業生産に寄与する	12-13
 持続可能な社会・環境に貢献する	6	サプライチェーンマネジメントを推進する	14
	7	製品品質に対する顧客満足度のさらなる向上を図る	15
	8	省資源・省エネルギー・地球温暖化対策を推進し環境保全に寄与する	16-17 WEB 環境責任
	9	廃水処理に関する環境保全技術を向上させる	6-7
	10	地域社会とのコミュニケーションを通じて地域社会との共生と発展に貢献する	18-19
 いい会社・強い会社になる	11	ステークホルダーに対して適時適切な情報発信による対話を行う	WEB 社会的責任
	12	人権尊重とワーク・ライフ・バランスのとれた労働環境を提供し、人材育成とダイバーシティを推進する	5 20-21 WEB 社会的責任
	13	事故や労働災害のない安全・安心な職場環境を維持する	16
	14	成長する企業グループとして安定的な収益を確保する	23
	15	有事においても事業継続性を確保する	WEB 基盤となるCSR活動
	16	グループ全体へのCSR経営の浸透とコンプライアンスの徹底を継続して図る	5 22-23 WEB 基盤となるCSR活動
	17	グループ全体のコーポレート・ガバナンスの強化を図る	22 WEB 基盤となるCSR活動





2018年度アクションプランの目標など、  
詳細は 当社ウェブサイト「CSR情報」でご覧になれます。  
<https://www.nipponkayaku.co.jp/csr/>



## SDGsとは?

2030年に向けて世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です

★★★ 達成 (90%以上)    ★★☆☆ ほぼ達成 (80%以上)    ★☆☆ 努力中 (60%以上)    ☆☆☆ 未達 (60%未満)

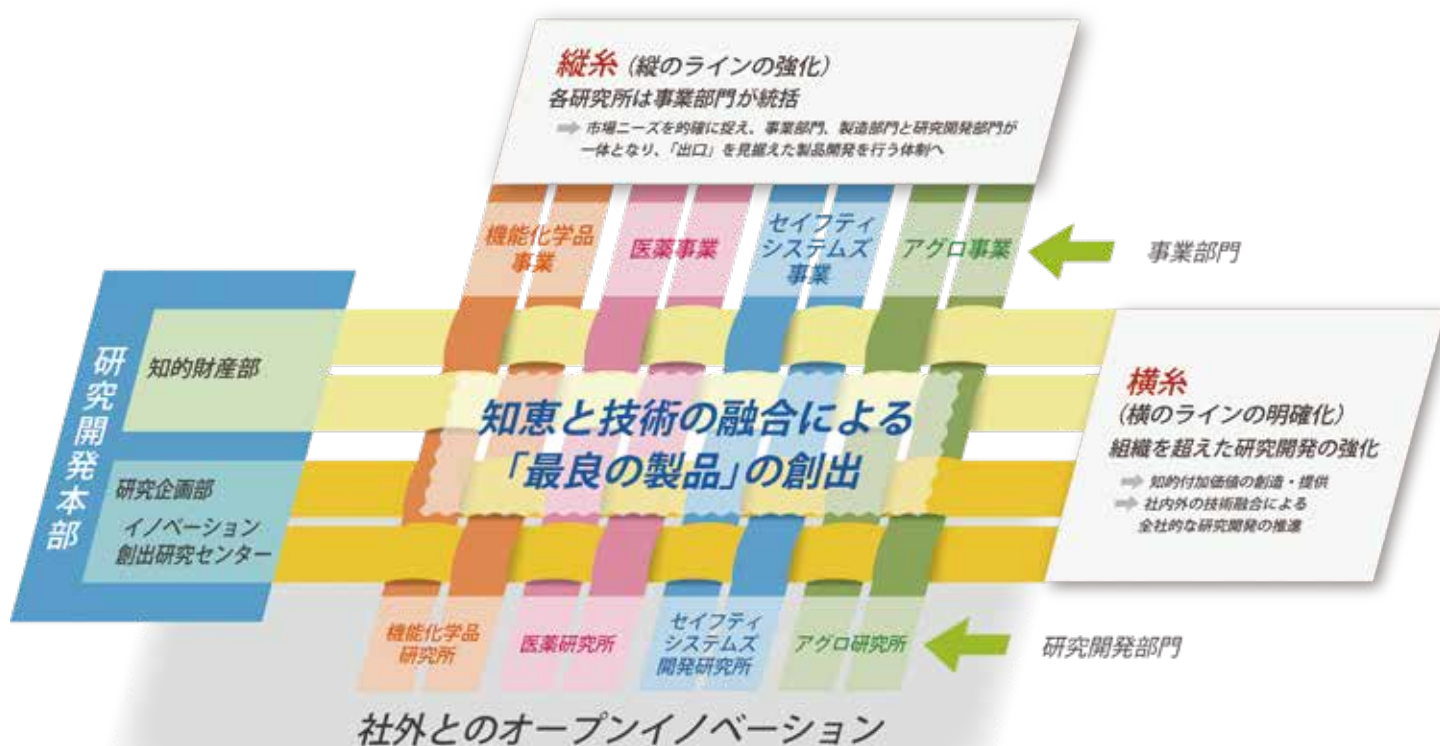
CSRアクションプラン2017 結果	単年評価	関連するSDGs
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 抗がん薬内包高分子ミセルNK105の臨床試験を開始</li> <li>● ジェネリック抗がん薬テモゾロミド錠「NK」を上市</li> <li>● がん領域抗体バイオシミラー トラスツマブBS「NK」の製造販売承認を取得</li> </ul>	★★★	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国内、海外各拠点で既存品の増産や生産体制の拡充を計画通りに実施しグローバル品質保証体制のもと製品を安定供給</li> </ul>	★★☆☆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新製品の生産・販売体制の構築を計画通りに実施</li> </ul>	★★☆☆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 技術融合を図るコーポレート研究テーマ1件を新規に立上げ</li> <li>● 全社研究発表会、研究所長会議、分析評価技術交流会など技術の相互理解や融合の機会を創出する取り組みを実施</li> <li>● 国内外の研究機関との共同研究2件を新規に立上げ</li> </ul>	★★☆☆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 海外グループ会社での知的財産の管理体制を強化</li> <li>● 特許の自社、他社分析を通じた知的財産の活用を推進</li> </ul>	★★☆☆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報通信分野に電子デバイス向けドライフィルムレジスト等を提供</li> <li>● 産業印刷分野にインクジェットプリンタ用色素を開発し提供</li> </ul>	★★★★	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新規殺虫剤「ファインセーブ®」の農薬登録を取得</li> <li>● 既存剤において13作物+1作物群、19病害虫に適用拡大</li> </ul>	★★★★	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● サプライヤーとコミュニケーションを取り情報収集を進めて調達リスクを軽減し、調達先の多様化を図ることで調達の安定を確保</li> </ul>	★★☆☆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 重大顧客苦情(損失金額1,000万円以上)が1件発生<sup>*1</sup></li> <li>● 顧客苦情データベースおよび品質工程異常データベースを改定し、なぜなぜ分析を取り込んで再発防止策の水平展開を推進</li> </ul>	★★☆☆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● グローバル品質保証体制の強化を継続実施、新たに教育センターを組織し社員の安全・技術教育を強化</li> </ul>	★★☆☆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● レスポンシブル・ケア方針のもと各事業部門で環境への取り組みを実施、2020年目標は達成の見込</li> </ul>	★★★★	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● エネルギー使用原単位：対前年度比2.7%削減<sup>*1</sup>で目標達成</li> </ul>	★★★★	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 廃水処理技術向上を目指した全社プロジェクトを推進し基盤技術を確立</li> </ul>	★★★★	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 工場の地域住民と各種のコミュニケーションを継続実施</li> <li>● 教育CSRとして地域の小学校へ出張授業を実施、イベント型実験教室「子ども化学実験ショー化学2017」へ参加</li> <li>● ピンクリボン活動を各地で展開し約2万人へ乳がんの早期発見・早期治療を啓発</li> </ul>	★★★★	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 財務・非財務情報をタイムリーに適正開示</li> <li>● 機関投資家との継続した対話を実施</li> </ul>	★★★★	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● IFRS導入検討プロジェクトにて影響度調査を実施</li> </ul>	★★☆☆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 女性活躍推進：女性管理職比率7.0%<sup>*1</sup>(対前年度比0.3ポイント増)</li> <li>● 人事階層別教育、各工場・事業部門での技能研修など人材育成を推進</li> <li>● グローバル人材育成として海外赴任前教育、語学教育支援、海外グループ会社との人材交流を実施</li> </ul>	★★☆☆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 管理職研修を通じて次世代育成支援対策についての教育を実施</li> <li>● 労働組合と労働時間専門委員会を開催しノー残業デーを推進、有給休暇の取得推進を目的として「アニバーサリー休暇」を導入</li> </ul>	★★☆☆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ハラスメントの防止と対応に関する社内規程の改定に沿った専門の窓口および対策委員会の運営を強化</li> <li>● ハラスメントに関する教育を集合研修や全社員を対象としたeラーニングで実施</li> </ul>	★★★★	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ストレスチェックを継続実施、高ストレス職場に対してグループカウンセリング等を実施</li> </ul>	★★★★	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 電気系統の作業事故が1件発生<sup>*1</sup></li> <li>● 各事業場、グループ会社にて防災訓練、安全審査を継続実施、不安全行動の摘出を目的とした職場巡視活動(定点観察)を開始</li> </ul>	★★☆☆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中国のグループ会社の環境安全診断および環境保安担当者委員会を実施</li> </ul>	★★☆☆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 売上高・営業利益ともに増収増益を達成</li> <li>● 資本効率化を図るためROICを経営指標として取り入れ、工場のコストダウン・遊休資産の整理を推進</li> </ul>	★★★★	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● BCP訓練を2017年度は医薬事業本部を対象として実施</li> <li>● 現場に則したBCPマニュアルの見直しを継続実施</li> </ul>	★★★★	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● CSR研修：グループ会社5社189名を含め集合研修315名が受講</li> <li>● コンプライアンス研修：国内ではeラーニング研修1,973名、集合研修825名、DVD研修778名、中国では集合研修380名が受講</li> </ul>	★★★★	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各国・地域において法改正等へ迅速かつ適正に対応、GDPR(EU一般データ保護規則)への対応を推進</li> </ul>	★★★★	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 取締役会の実効性評価について取締役・監査役への評価アンケートを実施</li> </ul>	★★☆☆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 監査部と監査役の意見交換や監査部と監査法人とのミーティングを開催し三様監査の連携を強化</li> </ul>	★★★★	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報セキュリティ研修およびセキュリティに関するセルフチェックを全従業員へ継続して実施</li> </ul>	★★★★	

\*1：日本化薬単体の数値



## EFFORTS OF BUSINESS ACTIVITIES

日本化薬グループは、KAYAKU spiritを実現し世のため人のために「最良の製品」を提供し続けることが企業の存在価値であると考えています。私たちは創業時から受け継いでいる「火薬」「染料」「医薬」の基盤技術に加え「樹脂」「触媒」などの独自のファインケミカル技術をもっています。これらの技術を常に進化・融合させながら機能化学品事業・医薬事業・セイフティシステムズ事業・アグロ事業の4つの事業を展開し社会に貢献する製品を提供しています。

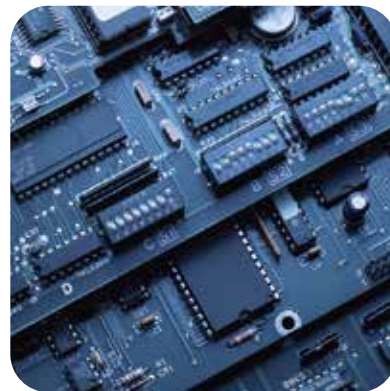


常に時代のニーズに応えた新製品を生み出していくため、研究開発部門は事業部門と一体となった組織で市場ニーズを的確に捉えた製品開発をしています(縦系の強化)。また、組織を超えた社内外の知的資産の融合や社外とのオープンイノベーションにより新事業を創出する取り組みも積極的に行っています(横系の明確化)。



## 機能化学品事業

来るべき将来は「超スマート社会」になるとわれています。さまざまな「モノ(物)」がインターネットに接続され、快適に暮らすことができる社会になります。それに伴う電子端末に搭載される半導体デバイスの小型化、高性能化、画像表示パネルの高精細化が急速に進んでいます。また、省エネルギー・省資源の要請はますます高まっています。機能化学品事業では、樹脂や色素、触媒で培った技術で情報・通信、省エネルギー・省資源分野へ特徴のある製品を提供し「超スマート社会」の実現に貢献します。



## 医薬事業

医薬事業では、ナノテクノロジー技術を用いた抗がん薬内包高分子ミセルに注力し、加えてバイオシミラーおよびジェネリック医薬品を重点領域として研究開発を進めています。2018年3月に「フィルグラスチムBS」「インフリキシマブBS」に続く3製剤目のバイオシミラー「トラスツズマブBS」の製造販売承認を取得し、発売に向けて準備しています。

得意技術によるイノベーションの推進、高品質な医薬品の安定供給により、医療の向上と医療費の効率化を通じて社会に貢献していきます。



## セイフティシステムズ事業

世界の自動車生産台数は、中国に次ぐ東南アジアなどの新興国で高い成長が予想されており、これまで以上に自動車安全部品の搭載率が飛躍的に高まると予想されます。セイフティシステムズ事業では、火薬技術を我々のコアコンピタンスとして研究を続け自動車安全部品を製造販売しています。また、市場に製品を送り出すまでのさまざまなプロセスを開発段階から各部門が連携し、開発から製造・販売までのプロセスを同時に進めることで、素早く市場に製品を提供することを実現しています。今後は、これまで以上に海外拠点間にも連携を広げることで、グローバル製品価値を高め、社会に貢献していきます。



## アグロ事業

世界的な人口増加による食糧需給問題や国内の食糧自給率問題や病害虫による農産物被害が増加するなど農業を取り巻く環境が年々厳しくなる中、安全・安心な農産物を安定的に生産し、市場に供給することが必要とされています。

アグロ事業では独自の目線から保有技術を工夫・活用しながら、さまざまな農薬を製品として提供しています。化学農薬のみに頼らない総合的病害虫管理に適した気門封鎖剤「フーモン®」や土壌中の病原菌や害虫の防除に有効なクロルピクリン剤を刺激性が低く施用ができるように改良した「クロピクフロー®」などを市場に提供し好評を得ています。今後もニーズに合った技術や資材を研究開発し、提供し続けることで農業に貢献していきます。





## Performance in Fiscal 2017

## お取引先への取り組み



## APPROACH TO BUSINESS PARTNERS

日本化薬グループは2015年に購買理念と購買基本方針およびCSR調達ガイドラインを定めました。当社グループは、研究・開発から原材料の調達、製造、販売、物流までのサプライチェーンにおけるすべての段階においてサプライヤーの皆さまと一緒に安定調達や安定供給に努めることが重要であると認識しています。サプライヤーの皆さまと積極的にコミュニケーションをとり、法令遵守や人権尊重、労働安全衛生などに努めていきます。

### グリーン調達の取り組み

機能化学品事業では、2007年11月にグリーン調達規程を制定して以来、製品に含有される化学物質の管理に取り組んできました。また、2018年4月1日には新たに発足した品質保証本部に化学物質管理部を設置し、事業本部の化学物質管理全般を統括する体制としました。

化学物質管理部では、グリーン調達の一環として『製品が含有化学物質に関する国内外法規制、業界基準及び顧客管理基準に適合するように、設計・開発、製造工程、サプライチェーン等における適切な管理を行うとともに、製品に含有する環境影響物質の削減・代替を推進する。』ことを製品含有化学物質管理方針として掲げ、工場とともに取り組んでいます。SVHC※をはじめとする環境や人の健康に悪影響を与える物質について管理基準を定め、当社製品への含有を自主的に管理しています。また、お客様各社のグリーン調達基準はデータベースにより関係者で共有し、お客様のニーズとして研究開発に反映していきます。



※SVHC（高懸念物質 Substances of Very High Concern）：  
発がん性や生殖・発生毒性など各種毒性が懸念される物質として欧州化学品  
が注視している物質

### セイフティシステムズ事業 購買説明会の開催

セイフティシステムズ事業では、日頃お世話になっている協力会社を対象に、年に一度「購買説明会」を実施しています。これは、当社グループの業績見込みや次年度以降の事業計画、生産体制の現況、開発計画、中長期ビジョン、購買方針を説明し、これらを協力会社の事業計画の参考情報の一つとしていただくことを目的としています。

当社を含め自動車産業のサプライチェーンを担う協力会社は、めまぐるしく変化する国内・国際情勢、原材料相場、為替変動などの外的環境に即応しながら、顧客に遅延を起すことなく、高品質・低コストの製品を供給し続けなければなりません。この購買説明会が貴重な情報交換の場となるよう有益な情報を提供することを心がけています。

また、品質・コスト・納期に模範的な対応をとっていただいた協力会社に、「優秀協力会社賞」を進呈しています。







# お客様への取り組み



## APPROACH TO CUSTOMERS

日本化薬グループは、お客様が満足する最良の製品を提供し続けるために「環境・健康・安全と品質に関する宣言」を基本方針とし、全社的に品質管理体制および品質保証体制を整備しました。

品質経営推進部が中心となり、品質マネジメントシステムを構築し品質向上・品質保証の活動を推進しています。また、製品の品質向上や安全性・信頼性に配慮し、技術サービスや情報提供がお客様の満足度向上につながるように努めています。

### アグロ事業の取り組み

アグロ事業では野菜類のアブラムシ類、ハダニ類、コナジラミ類を同時に防除できる「フォーモン®」を販売しています。本剤は、食品添加物として使われるポリグリセリン脂肪酸エステルを主成分とし、害虫の気門を物理的に封鎖することで効果を示します。そのため、安全性が高く収穫前日まで何回でも使用できることから、防除力アップに役立てられています。また、農薬によっては外部環境によって薬害を引き起こす場合がありますが、「フォーモン®」は 1,000 倍という高希釈倍率で効果を発揮し薬害リスクの低減も期待されています。

アグロ事業では作物の品質をより良くし安全に生産いただくために、随時、「フォーモン®」の提案、販売・普及推進活動を実施しています。



### 医薬品情報センターと信頼性確保

医薬品情報センターでは、抗がん薬・自己免疫疾患治療薬・血管内塞栓材など当社の医療用医薬品・医療機器に関わるさまざまな問い合わせを患者様や医療関係の皆さまからそれぞれ専用のフリーダイヤルでいただいています。当社が提供するすべての製品がお客様にとって「最良の製品」となるよう、センター員はお問い合わせ一つひとつに対して、的確に丁寧に回答することを心がけ、私たちの回答がお客様の期待にお応えしているかアンケートを行い改善しています。

また、医療施設を訪問する医薬情報担当者と連携し患者様のお役に立てる情報を提供するよう努めるとともに、お客様からのご要望やご意見を社内の担当部署に報告・提案しています。医薬品情報センターでは、「すべては適正使用の推進と顧客満足の向上のために」をスローガンとし、より良い医療に貢献していきます。





## APPROACH TO ENVIRONMENT, HEALTH & SAFETY

日本化薬グループでは、CSR 理念とレスポンスブル・ケア精神のもとで「環境・健康・安全と品質に関する宣言」を制定しています。その宣言に基づき、持続可能な社会を実現するため「安全第一」「環境経営」「健康経営」につながる種々の活動を展開しています。なお、2018 年度レスポンスブル・ケア方針では、生物多様性への配慮についても掲げています。今後も社会情勢の変化による「リスク」と「機会」を認識し活動を続けていきます。

### 健康増進プロジェクト

有所見者数

4.1% 減

厚和産業では、2015 年より従業員の健康保持増進を目的とした「健康増進プロジェクト」に取り組んでいます。従業員が安全に作業する上で、健康であることが前提と捉え「健康なくして安全なし」を基本に、メンバーは各部署代表、環境保安部員で構成し、サポート活動を中心に取り組んでいます。

メインの取り組みは、従業員全員での「健康増進チャレンジ」で定期健診から生活習慣の改善・予防の目標を立てアクションを決め、毎月、自己評価を行うという内容です。その他にも『健康出前講座』と題し、市の健康増進課の協力を得ながら「生活習慣病」「煙草について」等の講演会や従業員参加型の「健康チェック（血管年齢、他 7 項目）」「ウォーキングイベント」を実施しました。また、社内報では健康に関する記事の連載による意識高揚を図りました。開始より 3 年間で従業員一同、健康への意識が向上し、自発的にも行動を取るようになり、健診結果にも良い結果が表れています。

喫煙率

2% 減



健康増進プロジェクト 3 年目メンバー

### フォークリフト認定制度による 運転技能の向上

鹿島工場では、フォークリフトによるヒヤリハット事象が頻発した時期があり、その対策として運転者の技能向上を目指し事故の未然防止を図るため次の取り組みを行いました。

#### ①技能向上のための取り組み

外部講師による実技講習会（「運転操作の基本」「運転技量と教育指導の仕方」）をフォークリフト作業員全員が受講

#### ②運転認定制度の導入

認定試験の合格者だけに運転が許される（有効期間は半年）

#### ③環境整備

教習コースを常設し、何時でも運転の練習と実技試験が可能

#### ④運転技術の解析

全方向ドライブレコーダーを設置し、映像をもとに運転者の状態や癖を解析

これらの取り組みにより、フォークリフトによるヒヤリハット事象を激減することができました。今後も認定制度を継続することにより事故の未然防止につなげていきます。

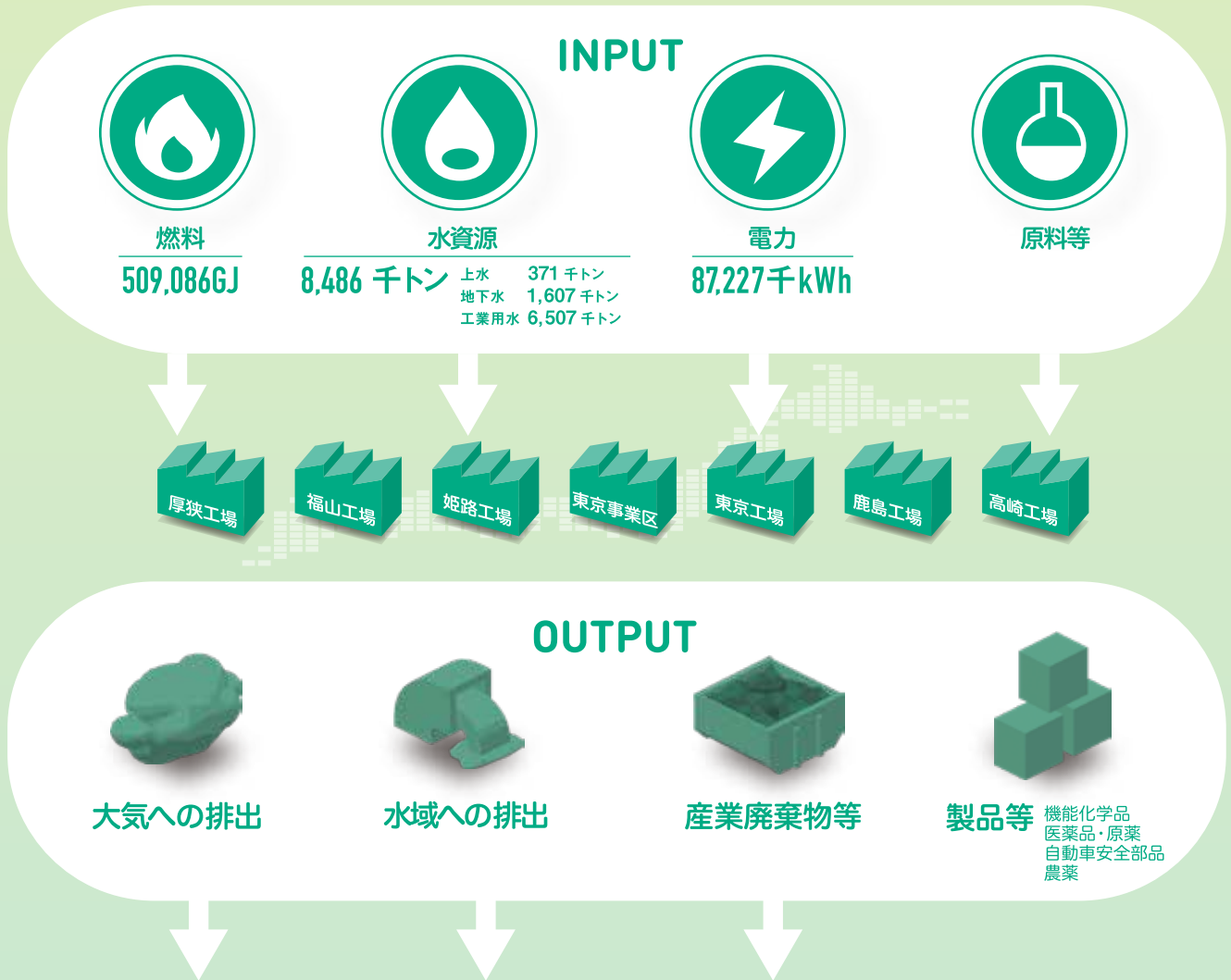


教習コースでの実技試験



# Material Flow

事業活動におけるマテリアルフロー



## ■中期環境目標と2017年度の実績

	地球温暖化防止	化学物質排出量削減		廃棄物削減		
	エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量*3 (生産部門+業務部門)	VOC*1 排出量	COD*2 排出量	廃棄物発生量	リサイクル率	ゼロエミッション率*4
2017年度実績	71.3 千トン	24.5 千トン	132.1 千トン 総排水量9,596 千トン	20,552 千トン	79.7% 工場外移動量 19,213 千トン 内、産業廃棄物 最終埋立処分量 1,148 千トン	5.6%
前年度比	1.1% 減	16.1% 減	5.5% 増	0.8% 増	1.5ポイント減	0.8ポイント増
2020年度目標値	79.5 千トン以下	42 千トン以下	150 千トン以下	23,500 千トン以下	80% 以上	3.0% 以下

※1 VOC: Volatile Organic Compounds (揮発性有機化学物質) ただし、集計には政令で報告対象となっている化学物質以外に反応で副生する化学物質等、大気中に放出されるすべての化学物質を含めて管理しています  
 ※2 COD: Chemical Oxygen Demand (化学的酸素要求量) 水中の物質を酸化するために必要とする酸素量で、代表的な水質の指標の一つ  
 ※3 エネルギー起源 CO<sub>2</sub>排出量: 2005 年度 (82.6 千トン) を基準として 3.8% 削減が政府方針です  
 ※4 ゼロエミッション率: 日本化薬では廃棄物発生量全体に対する内部および外部埋立量の割合として定義しています

## WEB コンテンツのご紹介



**環境・安全衛生・品質  
マネジメントシステム**  
環境保全、安全衛生の推進および品質保証の維持・向上に努めています。



**安全衛生・健康に対する取り組み**  
事故や労働災害の未然防止、健康づくり活動に努めています。



**環境に対する取り組み**  
中期環境目標達成に向けた各種施策を実施し環境負荷低減を図っています。



# Performance in Fiscal 2017 社会への取り組み

## SOCIAL RESPONSIBILITY

日本化薬グループは積極的に地域社会の活動に参加し、次世代を担う子どもたちの教育支援やステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを活発に行い地域に根付いた会社を目指しています。

特に乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを啓発するピンクリボン活動は2004年度より医薬事業本部を中心に独自に開始しました。今ではグループ会社を含め全社で活動をしています。

また、創立80周年の記念事業の一環として「難病とたたかうお子さんと家族の手助けを」を合言葉に「あすなるの家」の活動を続けています。



### 「あすなるの家」の取り組み

「あすなるの家」は、小児がんをはじめとする難病の治療を受けるなど専門の医療機関に入院・通院しているお子さんと付き添われるご家族の方に安心して滞在いただけることを目指しています。

埼玉県立小児医療センターのさいたま新都心への移転に伴いさらに利用者が増え、1998年の開設以来、のべ3,000組を超えるご家族が利用されています。利用者のプライバシーを守



りつつご家族同士の交流を図ることができるような設備を備えています。

時代の変化とともに当施設に求められるニーズをいち早く感じ、利用される方がより安全・安心・快適にお過ごしいただけるよう「あすなるの家」も日々努力し、ご家族の精神的・経済的なご負担を軽減する手助けとなれるよう工夫しています。

お子さんが退院され、ご家族の方がお帰りになる時の「ありがとう」の一言が最高の勲章です。



ハウスマネージャー 山路智史

### WEB コンテンツのご紹介



「リウマチら・ら・ら」  
リウマチの患者さまへの情報提供サイトとして公開しています。



あすなるの家  
難病とたたかう子どもとご家族のため介護者用滞在施設を運営しています。



地域との関わり  
工場祭などを通して地域の皆さまとのコミュニケーションに努めています。



## ● Kayaku Safety Systems Europe a.s. (KSE)※1 のピンクリボン活動

ピンクリボン活動の目的は、乳がんの知識や予防の大切さを伝えることです。KSEではONKO-DUHA Vsetin※2と共同で地元の報道機関や市庁舎、図書館、病院のウェブサイトはこのイベントを紹介し、2017年10月13日に「第3回ピンクリ



ボンデー※3」を開催しました。

イベントでは、キャンペーングッズと小冊子を製作し、地方自治体や企業、街頭で地域住民へ乳がんの理解を深め予防する方法をアドバイスしました。また、図書館で人形を利用して自己検査のポイントを紹介しました。



※1 チェコにある自動車安全部品の製造会社

※2 ONKO-DUHA Vsetin : SPCCH (チェコ共和国の乳がんの患者組織) のフセチン支部、KSEが2015年から財政的支援している団体

※3 ピンクリボンデー：世界的な胸の健康の日としてSPCCHが行っているキャンペーン

## ● 教育 CSR への取り組み

日本化薬グループは、未来を担う子どもたちに化学の面白さを伝え理科への興味・関心を高めてもらいたいという思いから創立100周年記念事業の一環としてイベント型の実験教室や出張授業を行いました。

イベント型実験教室では各事業場の工場祭や夏休み子ども化学実験ショー(夢・化学-21委員会主催)などにも参加しました。出張授業は小学校の指導要領に即した独自の教育プログラムを開発し、工場のある地域の小学校で実施しました。

### 出張授業：「体のふしぎ発見！～体のしくみとくすりのかわり～」

出張授業は、医薬事業に関わりのある理科単元「人の体のつくりと働き」を発展させた次の4点について実験を通じて学べるカリキュラムです。

- ①食べ物が消化されどのように栄養が血液中に取り入れられるのか、全身をめぐるのか
- ②くすりの成分がどのように小腸から血液中に取り入れられ、全身をめぐるのか
- ③くすりが効果を発揮することと体の仕組みには深く関わりがあること
- ④くすりを作る会社がさまざまな工夫や努力を行っていること

#### 高崎工場



2017年6月22日に高崎市立岩鼻小学校6年生を対象に出張授業を実施しました。

高崎工場の専門性の高い知識を持つ従業員が講師や補助スタッフとして参加しました。

多少緊張しながらも子どもたちに寄り添い、より理解を深められるようにアドバイスをしながら授業を進めました。今後子どもたちに化学の面白さや社会とのつながりを身近に感じてもらえる機会を提供できるよう継続して取り組みます。

#### 東京事業区

2017年6月30日に東京都北区立なでしこ小学校6年生を対象に出張授業を実施しました。

医薬研究所や機能化学品研究所の研究員が講師や補助スタッフとして参加しました。児童の皆さんは授業中に行われる実験に興味を持ち、真剣に聞き入っていました。先生方からも感謝の言葉をいただきました。このようなイベントを通し、化学について興味を持ってもらうとともに日本化薬についてもよりよく知っていただきました。





# Performance in Fiscal 2017 従業員への取り組み

## EFFORTS TO EMPLOYEES

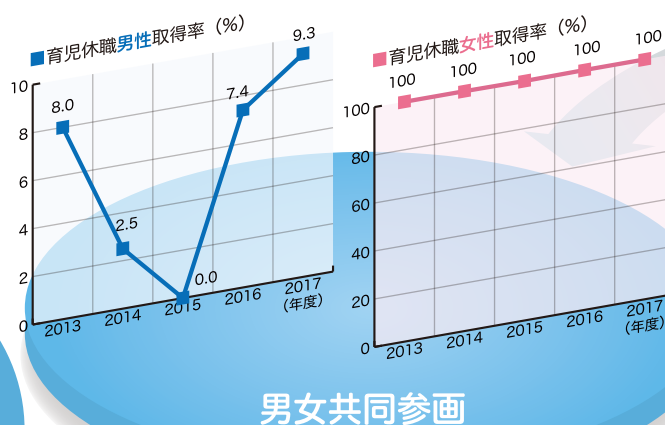


日本化薬グループは、KAYAKU spirit 実現の行動主体である従業員一人ひとりの人権を尊重し、ダイバーシティ&インクルージョン（良心の結合<sup>※1</sup>）を念頭に置いた人材マネジメントにより、「いい会社・強い会社になる<sup>※2</sup>」ことを目指しています。

従業員全員が、個々の能力を最大限発揮し、やりがいをもっていきいきと働くことができる会社（いい会社）は、自らの成長と会社の継続的な発展（強い会社）を可能とします。その達成に向け、健康と安全に配慮した働きやすい職場環境づくりとともに、新たな付加価値創造に向けたさまざまな「働き方改革」にも取り組んでいます。

※1 良心の結合：P05 社是の言葉

※2 いい会社・強い会社になる：P10 「アクションプラン」 参照



育児休職取得率

男性

9.3%

女性

100%

## 女性の活躍

私は、2012年にマレーシアに設立したKMY<sup>※3</sup>の最初の地元の従業員として働くことになり、2013年に姫路工場で研修を受けました。

現在、私はKMYのマネジメントチームの唯一の女性で、人事管理部長です。部下は8人おり、メンバーとのコミュニケーションを大切にしています。そして、日本化薬グループのKAYAKU spiritを理解し、マレーシアの従業員へKAYAKU spiritの意味や仕事のやり方をしっかり啓発しています。また、マレーシアの女性従業員のモチベー

ションを上げ、前向きに前進し、将来KMYのマレーシアでのビジネスを率先することを強く期待しています。

プライベートでは妻であり4人の子どもの母親でもあり、ワーク・ライフ・バランスをうまく取り入れ趣味の読書やジョギング・料理をして休日には家族と一緒に旅行に出かけます。



KMY 人事管理部長  
ラムラ モハマド ノール

※3 KMY：Kayaku Safety Systems Malaysia Sdn. Bhd. マレーシアにある自動車安全部品の製造会社



## グローバル交流

初めまして。私の名前はホルヘ モンテスです。私は、KSM<sup>※4</sup>の工場立上げに携わったのを皮切りに品質・製造についての継続的な改善活動を10年間行ってきました。そして、2017年6月にセイフティシステムズ事業本部品質保証本部が主導するグローバル品質プロジェクトメンバーの一員として日本化薬本社に着任しました。

プライベートでは、メキシコと日本では生活環境がまったく違う中で、家族とともに新しい世界に心を開き、日本語を習ったり、色々なものを見て回ったり、人の優しさに触れられたことは何物にも代えがた

※4 KSM : Kayaku Safety Systems de Mexico, S.A. de C.V. メキシコにある自動車安全部品の製造会社

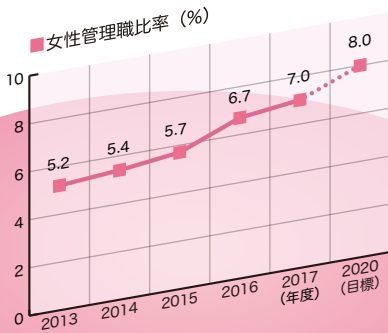
※5 全員D席で行こう : ドライバースシート(D席)で主体的に行動すること

い経験となっています。しばしば「主食は何ですか？それは日本で買えますか？」と聞かれます。「トルティーヤが主食です。日本で買えます。」

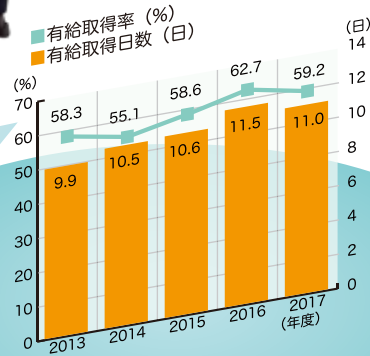
最後に、私たちには日本化薬グループをより良くするチャンスが毎日あります。それぞれのポジションから「全員D席で行こう<sup>※5</sup>」をモットーに変化を起こしていきましょう。



セイフティシステムズ  
事業本部  
ホルヘ モンテス



### ダイバーシティの推進



### ワーク・ライフ・バランス

有給取得率・日数

**59.2%**

**11.0日**



女性管理職  
比率  
**7.0%**



## 育児休職を取得して

私は2度目の育児休職を取得し2017年7月に職場復帰をしました。現在は保育園の送迎のため育児時短勤務を利用して子どもたちの時間も大切にしながら無理なく働くことができます。

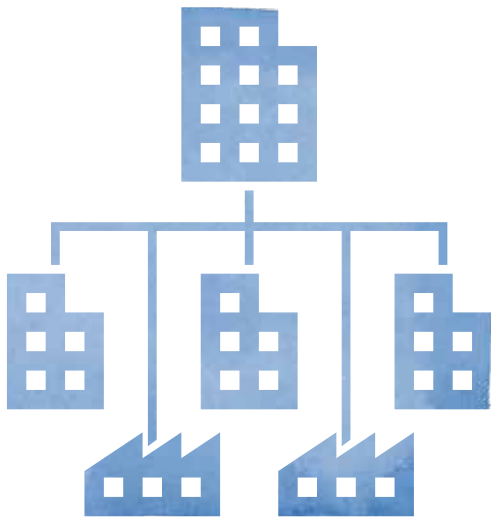
出産後は、仕事を続けられるのかと不安がありました。しかし約1年間の休職中には職場から会社の近況連絡などもあり、スムーズに職場復帰することができました。また、社内制度が充実しているので、夫も短期間の育児休職を取得することができ、育児の大変な時期を夫婦で共有できたことも非常に心強かったです。男性の育児休職も徐々に取得しやすい環境が整ってきていると感じています。子どもの体調不良等でお休みをいただくことがあり、職場の方々には大変申し訳なく思っていますが、いつも温かくフォローしていただき、

本当に感謝しています。

育児休職・復帰を経験して、制度の充実はもちろん、職場の方のご理解やご支援、家族のサポートがあってこそ、毎日笑顔で仕事と育児を両立できているのだと改めて実感しています。これからも周りの方々に感謝の気持ちを忘れず、母として、社会人として成長していきたいと思っています。



(株)日本化薬福山 管理部 瀧本 宏美



## CORPORATE GOVERNANCE

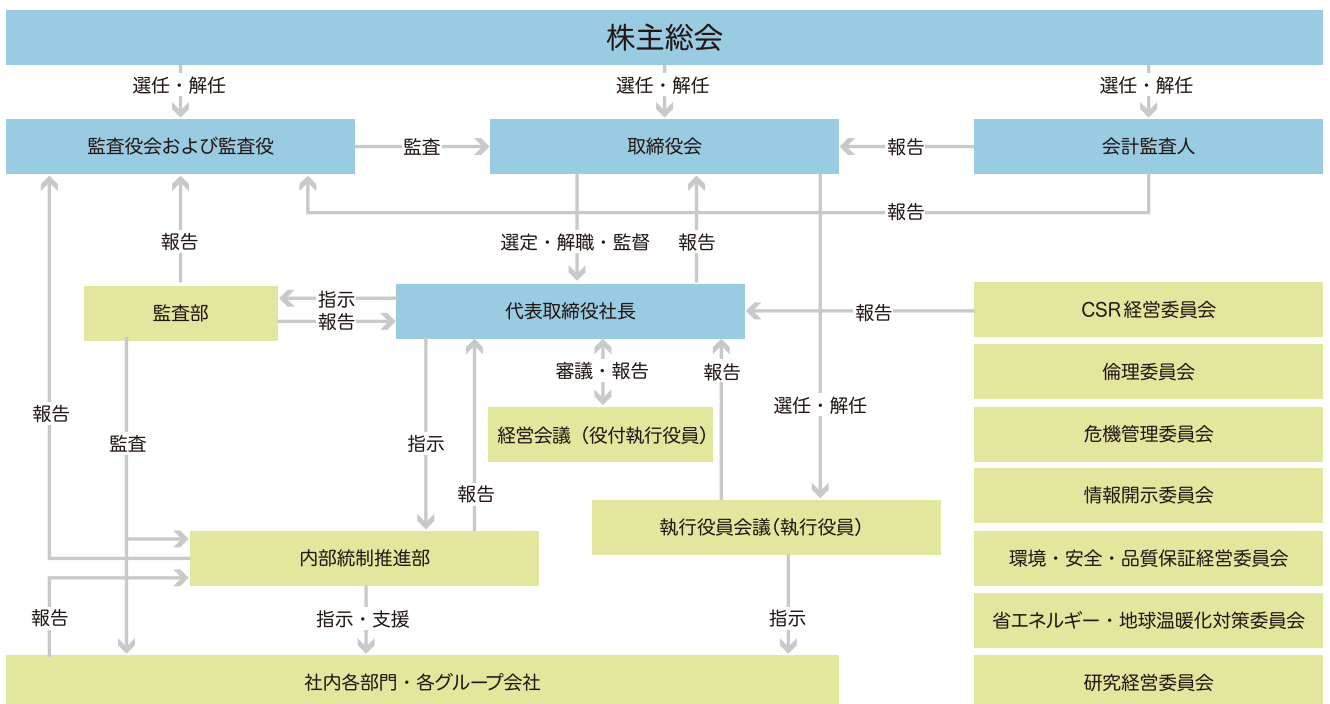
日本化薬グループは、社会から信頼される企業であるために、タイムリーかつ公正な情報開示やチェック機能強化による経営の透明性確保が重要な課題であると認識し、コーポレート・ガバナンス体制の拡充・強化に取り組んでいます。

コンプライアンスは事業活動の基盤であり、法令遵守・社会規範の遵守はもとより、社会からの要請に真摯に応えるべきものと考えています。そのため、研修やコンプライアンスアクションプラン作成、コンプライアンスアンケート、内部通報制度の運用などを行っています。

さらに、企業活動に伴うさまざまなリスクを適切に把握し、コントロールすることは極めて重要な課題と捉えています。そのため、TOP5 リスクコントロール活動\*の推進や危機管理マニュアル・BCPマニュアルの整備、BCP訓練などを実施しています。

※TOP5 リスクコントロール活動：国内外の組織ごとに、重要と思われるリスクを5つ抽出し、その対策を立案、実行する活動

## 内部統制システム概念図





## 海外におけるコンプライアンス活動

日本化薬グループでは売上の半分近くが海外グループ会社となり、従業員数はすでに海外が上回っています。特に中国ではグループ会社も多く、従業員数は1,000人近くになり、KAYAKU spiritやコンプライアンスの浸透は重要と捉えています。2017年度は中国にあるグループ会社の総経理と倫理担当者が集まり、初めて倫理担当者会議を開催しました。会議では各社のコンプライアンスへの取り組みや課題、今後の進め方等を議論しました。

また、化薬(上海)管理有限公司の法務担当と内部統制推進

部が協力して現地従業員へのコンプライアンス研修を6グループ会社で10回開催しました。その後380名の受講者へのアンケートを行い、次回以降の研修に活かしていきます。

今後も各国の現状を踏まえ、他部署との連携を深め、より効果的かつ効率的なグローバルコンプライアンス活動になるよう取り組んでいきます。



## 企業概要

### 会社概要 (2018年3月末現在)

会社名	日本化薬株式会社	電話番号	03-6731-5200(代)
設立	1916年(大正5年)6月5日	従業員数	単体1,845名 連結5,684名
資本金	149億3千2百万円	グループ会社	子会社36社 持分法適用会社4社
本社所在地	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号	決算期	3月31日

### 主な事業内容

機能化学品	機能性材料、色素材料、触媒、偏光フィルム、光学部材	セイフティシステムズ	自動車安全部品
医薬	医療用医薬品、医療機器・医療材料、医薬原薬・中間体、診断薬、食品・食品添加物、食品品質保持剤	アグロ	殺虫剤、除草剤、殺菌剤、土壌くん蒸剤
		その他	不動産事業

### 財務関連数値 (2018年3月末現在)

#### ■ 関連数値

売上高 **1,678億8千8百万円**

親会社株主に帰属する当期純利益 **154億7千2百万円**

ROE **7.7%**

研究開発費 **120億5千6百万円**

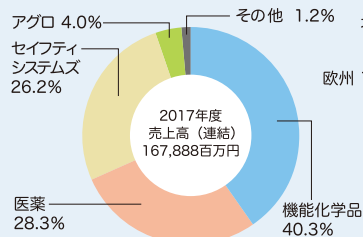
納税額 (法人税等の支払額) **59億7百万円**

#### ■ 決算資料

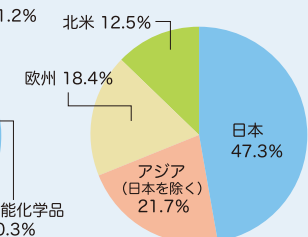
詳細はウェブサイトをご覧ください。

<https://www.nipponkayaku.co.jp/ir/library/>

#### ■ 事業別売上比率 (連結)



#### ■ 地域別従業員比率



\*従業員数は就業人員であり、臨時従業員を含んでいません \*対象は日本化薬本体と連結子会社29社です



#### 表紙写真について

タイトル ネイチャー  
撮影場所 マレーシア センダヤン  
撮影者 ノール サラヒダ マン



#### 撮影者コメント

葉が散っていくのは美しくも悲しい感じがしますが、それが次の新たな芽生えにつながっていくのだと思います。

# 日本化薬株式会社

〒100-0005

東京都千代田区丸の内二丁目1番1号

TEL:03-6731-5200(大代表)

<https://www.nipponkayaku.co.jp/>

2018年6月発行



この印刷物は環境に配慮し、FSC™認証林および管理された森林からの製品である「FSC™認証紙」、石油系溶剤を100%植物油成分に置き換えたVOCフリーの印刷インキ、印刷工程で有害な廃液を排出しない「水なし印刷方式」を採用しています。